一般　菊川市民の水はリニア工事で奪われるか？

織部　光男（無所属）

Q　リニア新幹線を通すために、南アルプスの山頂から1400メートル下に、また大井川の川底から400メートル下に先進坑約7メートル・高さ6メートルと、本坑幅約13メートル・高さ8メートルの2本のトンネルを掘らなくてはなりません。これによって南アルプスの自然が水枯れで破壊されるかもしれないのです。大井川の水が枯渇して市の水道栓から水が出なくなったときに、どのように対処するつもりですか。

A　大井川の水が渇水したときの対処についてですが、リニア工事においてそういった事態にならないよう、国や県・流域市町と連携、情報共有を図っているところであります。本市は、水道水の97％、農業や工業でも大井川の水を使用しております。工事期間中も含めて、現在の水量と水質が恒久的に確保されることが何よりも大切であると考えております。今後も引き続き、国や県・流域市町と連携して取り組んでまいります。

Q　市長の施政方針では原発関連とリニア水問題に一言も触れていない理由は何でしょうか。

A　原発やリニアの水問題については、施政方針で記述あるなしに関わらず、市民の安全安心市民生活に影響を及ぼすおそれのある重要な問題であり、これまでどおり取り組んでいくことに変わりありません。

一般　体験型観光と関係人口増施策

須藤　有紀（みどり21）

Q　地域資源の連携による集客及び交流人口の増加について考えは。

A　菊川駅前や小菊荘にレンタサイクルの設置を計画。市内に点在する史跡や食、自然など様々な地域資源を周遊し体験できる環境を整え、モニターツアーを通じて、ターゲットとなる若い世代のニーズに合った周遊マップを作成する。

Q　本市の教育旅行の取組について。

A　修学旅行や総合学習の中での教育ツアーを実施する。世界農業遺産茶草場農法のお茶づくりを学んでもらい、その農法で作った茶葉を使った和紅茶づくりや手もみ茶づくりを体験頂くなど、学びと体験を組み合わせたものを予定。

Q　地域おこし協力隊をはじめとした外部人材、民間との連携による事業の実績及び成果は。

A　本市の地域おこし協力隊の実績は数多くある。昨年十月に実施した火剣山キャンプ場でのイベントは、満足度の高いものとなった。イベント終了後はキャンプグッズなど、36万円分のふるさと納税による寄附につながった。また、民間人材との連携では全国七十五店舗の地鶏居酒屋チェーン「塚田農場」において、本市の農産物を使用したメニューが提供されるというコラボレーションが実現した。